

クルリンと ほしぞらさんぽ 5月号



ほしぞらさんぽ やって見ましたか？

4月には何日かほしぞらさんぽができる夜がありましたね。やってみましたか。晴れたらとにかく星を見上げてみましょう。何回もやると自然に分かってきます。「習うよりなれろ」ですね。

5月は1・2週と5週がいいよ

5月前半の12日ごろまで月明かりにじゃまされませんし、28日ごろからまた月明かりがない空になります。月明かりがある夜は、月の観察もやってみましょう。

道具はどうするの

天体観察とか観測ではなくて、気軽に星空を楽しむのがほしぞらさんぽですから、道具もかん単なもので。もちろん、星図と赤いライトは絶対に必要ですが、そのほかに星座早見盤が上手に使えるようになると便利ですね。

見る道具は基本的には肉眼です。でも小さい双眼鏡があると見える星の数が増えます。肉眼では見えなかった小さい星が見えてきます。きれいで声が出てしまうでしょう。また月面の様子も8倍ぐらいの双眼鏡でも、肉眼とは比べ物にならないほどずっとよく見えますよ。双眼鏡を使うと見えるようになるのは、なぜ？

春の星空

次ページの国立天文台の星図を見ると、聞いたことがある星座がいくつもありますね。いくつ聞いたことがありますか？ 指を折って数えてみましょう。「おおぐま座、かに座、しし座、おとめ座、こじし座、りゅう座、うしかい座、かんむり座」。どれも春の星座ですが、春は明るい星が少ないので、あまり暗いとは言えない伊勢原市内の空では見えない星座もあります。どこまで見えるか星図と見くらべながら調べてみましょう。そしてお家の人に暗い空に連れて行ってもらえるようならば、どれだけ見え方がちがうか比べてみましょう。

「春の大曲線、春の大三角、北斗七星」。知っていましたか。これも星図で確かめましょう。

春の大三角

は、うしかい座の赤っぽい星アルクトウルス0等36光年、おとめ座のスピカ1.0等260光年、しし座のデネボラ2.1等40光年、の3星で作る形の整った三角形です。春・夏・冬と大三角がありますね。

春の大曲線は北斗七星のカーブからうしかい座のアルクトウルスを通してスピカまで、大きな大きなカーブです。スピカがやや暗いのでスピカを確かめる手立てになります。

春の夜空には1等星は3つだけ

夏には4つの1等星と2等星が12あり、その上夏の天の川がありますから、にぎやかで美しい星空になります。冬にも1等星が7つと13の2等星があり、オリオン座やふたご座、スバルなどもあって見ごたえがあります。

そして秋には1等星は1つしかなくてややさびしいのですが、晩秋の夜空は、すんでいて星がきれいだし、夏の星座や夏の大三角もまだ残っていたりするので、秋の空も見所があります。

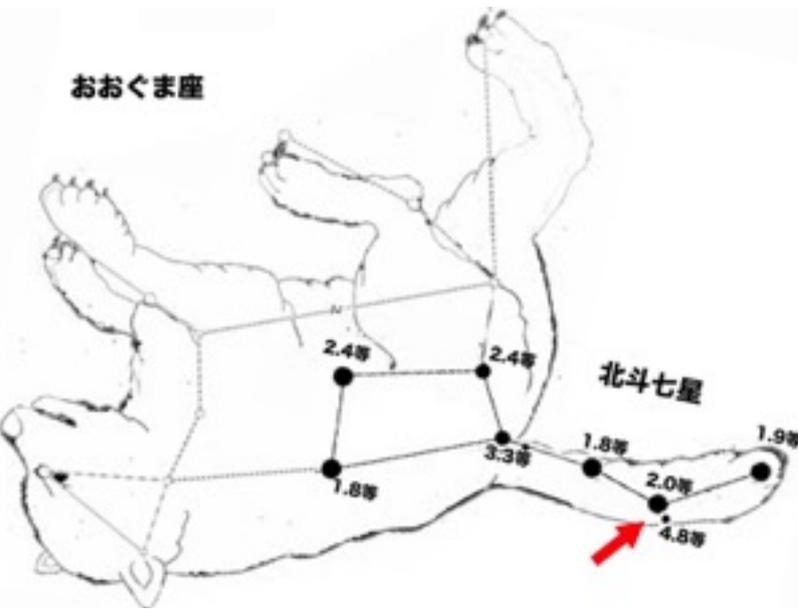
それに比べて春の空は、1等星はうしかい座のアルクトウルス、おとめ座のスピカ、しし座のレグルス1.4等70光年と3つだけ。2等星は12ありますが、星座の形を見分けるのがむずかしいし、春の空はどうもさびしい感じです。

これは、夏と冬の夜空は天の川（太陽系が入っている天の川銀河）の方を向いているために星々がたくさん見えるけれど、春と秋の空は天の川の星々のように近くに星がなくて、宇宙の遠くの星だけしか見えないからですよ。

北斗七星

北斗七星は星座の名前ではありませんね。星座としてはおおぐま座で、その一部分が北斗七星と呼ばれているのです。春は北斗七星がちょうど見やすい高さや角度にいますから、ぜひ注目しましょう。

おおぐま座



う。北斗七星の6番目の星 (赤い矢印) は肉眼二重星で、明るい方がミザール、暗い方がアルコルです。この星が二つに分かれて見えるかどうかで視力を試すことができます。

北斗七星は星空モードのあるスマホならば撮影できます。露出時間 (シャッターを開けている時間) が30秒ぐらいになりますので、カメラが動かないように固定して撮りましょう。

流星群があるけれど

5月6日の明け方ごろ、**みずがめ座の流星群**があるけれど、4年生の皆さんには無理な時間ですね。

